

Campus®

NOTEBOOK

Campus notebooks contain the best ruled foolscap suitable for writing.

A 普通横罫

観測所日誌(5)

1988年7月~1989年12月

1988/7/ #16-17 雨

モーターのコントローラーの交換

30cm ニュートン 取付

1988. 7. 16-17 天気 曇り 最高 18°C

↓
大雨

田中 [redacted]

梅雨末期の大雨が続いているなか、いよいよ30ヤシクニコート2を設置するたぐに一人でやってきた。~~と~~どこも一人で50~60キロの30cmは載せられないが、[redacted] 君達のグループ11名(!!)が先に蓄いていたので、彼らの中の何人かに大川に手伝ってもらうことになり、なんとか載せることに成功した。

土曜日は元軸調整、セント位置決定、極軸出し(たどりが遅く、早い、30cmのニコート2を3点で、眼視的にも見張みたいもりの日。

1988. 8. 30-31 天気 曇り 最高 25°C

田中 [redacted]

梅雨がなかなか明けず、今年の梅雨明けは8月にズレ込むかと思われたが、本日ようやく快晴となった。しかし、台風も残り、梅雨明けはまたこの事。

30ヤシクの調整のため本日はもってきたが、ここに蓄いた量の方が2人中、淡い月がかすかに見えるだけ。それでも恒星時の干渉はなんとかできたが、とても追いつくところまではゆかず、次週に持ち込めた。

31日(月)の昼間は結構暑くなり、30°C近くまでなると、ようやくここにも夏本番がやってきたようだ。

1988. 8.6 ~ 8.7 天気 晴時々曇り

177" 1年ぶり観測所にて。2来した。居住性の良工に心、くりました。今日は一家5人(大人2人、4, 2, 0才の子供3人)でや、2来なので。子供連の2人が大部心配した。瓦のてすか、壊す所も十分あり。階段もてす。また観測室の出入口の床にはふたも工して。大部安全性の面も安心できるように列した。

昨夜は、30センチは12mmのアイコーズをひかえ月と、火星と木星と、金星を見ました。夜半までにはミーニングも大部おこたり胸クレーターや、火星の極冠、木星の縞模様などよく見えました。

田中工と寝具をお借りいたしました。とても有難うございました。

と突前に観測所の周辺の草取りを少ししておきました。道具がなかったの2クワで代用してした。余りまはにはどうせせいでいい。

1988. 8. 13-14-15

天気 13-14 晴時々曇り
14-15 ベタ雲

田中: [redacted]

ココのところ また天気が悪くて、ぐずついた日が続いている。しかし、カメラホルツを買って、また30cmの調整のため、盆入りになった。今回またまたや、てきた。

我がが着いた時には、[redacted]と子供たち。

と、[redacted]が先着していた。天気はまあまあ晴れで、はくとか、夏の天川が見れた。

30cm. 反射の方は、調整が少し進んだか。また"まだ"完のきでなすとうで、直焦点で果たして捕らるかどうか。

1988. 8. 18~19~20

18日 雨
19日 晴時々曇

田中 [redacted]

例によって、なかなか晴れてくれない。今日(19日)は夕方一時晴れ間が見えたので、今晚こそはと思ったが、二時まで、雲間から時々星は見えるものへとでも撮影できる空ではなかった。結局二時すぎに降り出した雨のため、無念の思いでルーフを(めた。

今年も昨年と違ってホタルがこの時期でも観測所の周りに多く見られた。これも異常気象のせいかな？今回は [redacted] (3人)を連れしてきたため自分の予定していたものがほとんどいりません。もっぱら子供と遊ばせたいだけ。それにしても私の子供時代も 田中女中(非常に活発、しかし自然と遊ばすべきまったく知らない)だったか？この年になると気憶もさだかではないが、子供は大人にまともについていけないうような気がする。

1988 8/20~21

晴時々曇

この前来たのはルーフを見た時だったと思います。観測所もその間にずいぶん仕上げて来ました。皆さんの御骨折りに感謝しております。これから子供もだんだんと大きくなってきて、手が届かなくなる(おこぎ)で、場所回数を減らさざるを得ないと思います。星見の方は連日の天候不順で、あまり期待はしていませんでしたが、星が見えただけでも、うれし

[redacted]

日食病の副作用で金欠病。R6をゆくりと...
風が気持ちいい。

久しぶりにここでゆくり過ぎた。7/16-17は、車がぬかるみにハマり、人数も多かったし...。バタバタし過ぎていた。
天気は良くない。こんがは“冬”の空に挑戦。
あとその前に開所式。成功させよう。

1988. 8. 20~21

観測所には1台3台。その間に観測所の定和の直化は
落ちた。昨日は1階の空平が未完成で他は土間の
ままだ。と23から台所。とはじめにしてすべし。
又後には悪か流して空模様生よくたかたか
ビデオの試撮りで火星、金星が点より大きく写ったのは
大成功の収かりだった。明日は模範で……撮りたい

1988. 8/21

総会出席のため日帰りです。

1988. 8/21~22

市村

総会出席と子供の相手をするために、也て早退した。便所が
いっほいといいと天気が悪いといっほいと。子供たちは、家
で使った形 （中略）

実家にお入り、和だけか也て早退した。

明日近く帰った田中氏から、下界は快晴!!との電話!!(30:20!!)
やはり、こは、夏はムリなようです。ここは泊りながら、早で睡れてはよ
とこへおかけ子ことを考えた方がいいのではないかと思ひます。

1988. 8. 27-28-29

天気バツ悪
気温 22°C

田中

27日(土)の夜は満月。それでもここにきてき
たのは、いま接近中の火星を撮影するためだ。
なに3. 星野早寛も彗星の写真ばかり撮って
きて、火星の早寛は人て始めてなので、一体どうし
た方がいいか。とまどうばかり……。

とはい、でも、今回も天気が悪く、どうも撮れ
そうにない。この調子だと、9月17日の大接近
までに、どの位撮れるかバもとない。

なに3. この早寛は、売れ先(産経新聞)が
決ま、ているのである……。

27日(土)、ここに来る途中で、部分月食に出会
た。約1/3欠けたのだが、~~刻々と~~刻々と欠けて
ゆくさまはなかなか見ごたえがあった。

1988、9. 9-10. 天気 晴時々曇り
(金) (土) 気温 ~~20~~ 16°C

田中

火星の撮影のため来た。

1時ごろ雨より晴れ、2時半まで撮影

7mm. コニカ 200 にて各12枚づつ

本日は仕事のため、トニボリ帰り。よって

この日誌も大急ぎで書いていたため大巾省略

ゴキ

1988年9月14~15日 台風

台風18号が父島の南にあるという知らせが
ついていたのでおわす"来てしまった。

新宿を10時半、五都宮で1時間ほどおかけて

那珂伊予を下りたのが1時ぐらゐ。いかに

着いたのが2時15分と申す雨はふつふつと

んかりで。こちらは雨は降ってなかった。

くまず"演会、3時には寝る。モリが

5時近くまで話しこんでしまった。

もちろん火星は何も見えなかった。

月末にまた来る。

帰り道で電してげんごんのライトが

ついたらしてスイッチがつかず"電球を

ゆすぶって消してありますのでよく。

1988. 9. 16-17 天気 くもり時々雨
(金) (土) 田中

台風一過で
晴れると思、こまごま雨がずっと雨。

結局何もできず寝ていた。

そして今4時前急いで帰京することになる。

1988. 10. 1-2 天気 晴の5つりの大雨
(土) (日) 気温 13°C

ニニモだいたい寒く感じられるようになった。

久しぶりの来所。ニニ1ヶ月近くの長雨の
ためか、台所も2階の壁さへもカビが発生

していた。どうも1ヶ月近くも昼間あけな

いていと、湿度、13°Cほどで仕方ない。

とはいっても晴れてくるといいのは（ほう）が

ないのだけれど――。

今回は日誌もアルバムを持って帰ることになる。

1988 10/9~10
天気 9日夜 曇り時々星見えるが雨もはらつく
10日夜 曇り

久しぶりに観測所でやり直しをした。

日誌には書かなかったが、5月6月8月に
それぞれ来所したもののトッポ帰りであった。

それにしても今年の夏は天気が悪かった。

4月の新月以来、新月の週末には全く晴れ
ていない。特に関東地方が一番悪い様だ。

今日も、台風(24号)一過で天気が良くなる
はずなのに、関東にたけ気圧の谷が残って
いるとかがで良くない。冬の天気に期待
したい所である。

10月 PM 7:00 ベタ曇りの為、帰京する。

1988. 10. 9-10-11 天候バツマン
気温 10.5°-13°

田中 [redacted]

今回はいつものハードスケジュール。
とはいっても行動ではなく、雑誌の原稿書き
がたまりにたまって、山でやるハメになって

まった。しかし、役目によって、たがたが、書けず。
結局、持ち帰って、東京でやることになってしまう。

10月は、いつにもまして、忙しい月になりそう。

開所式も近づいてきた。あ、あ、忙しい、忙しい。

1988 10/13-14
天気 ド快晴 [redacted] 気温 3°

今日はこの冬初めての西高東低の冬型の気圧配置で
快晴となった。14日の夕方、会社の旅行でシンガポール
にでかけるので、それまでは時間があるので一人で
やってきた。いつも今日みたいに天気が良ければ
なあ〜。

1988. 10. ~~16~~¹⁵ - 16 - 17
天候 くもり → 晴 → 快晴

田中 [redacted]

本日もやはり時間が甘いのを、くり返す
半分、予定を消化できたことのみ記す

1988. 11. 23 快晴 気温 15°

開所式の前に、久しぶりかに来所しました。
高橋氏が古タイヤを燃やしていたのを手伝い、体中
マ、グロ。全部で42本燃やしました。風呂でも
入って、ほっりしようと思ったところ、民宿が休み。
まいった。

夜は風が強いものの快晴。火屋、不屋で40cmで
見たか、気流が重く、全くダメ。

誰か屈折で置えよ、誰か?
明日、早いので、夜半前に帰ります。

1988年11月2日~4日

2日 曇天(夜)

3日 快晴(夜)

高橋

2日、20時に車を出発、真夜中に観測所に到着した。

途中、これまでになかった試練が二つあった。一つは、まもなく
勿来というところで後ろから接近したパトカーにお世辞に
なされたこと。指定速度が70kmなんで、とて高直道
路と侮るまいし……。二つ目は、289号の迂回に手開取
り。や、とたどり着くと天気は曇天、寝たところで寝子
ことはしりました。

3日、8時起床、9時より田中さんより依頼されたタ
イヤ約20個を燃やす作業に取り掛った。その間に
さん他4名(田中さんはお子共)が手際良く立派なテーブル
4つを約2時間で仕上げ、14時30分に帰る。その後ま
くしてさんが来て、二人でタイヤを燃やす。なんと
するタイヤは20個ではなく、42個もあったのだ。

件じゅうススたさけで、風をよめて魚の村まで行、た
か、どこも“本日は休み”であなく、カレーライスと焼鳥とコ
と買った組み合わせの夕食をとり、戻る

戻ると同時に、火星と木星に30mを向け下加ソーイングが
悪く、とても見えたのは、之有り。(望遠鏡は140mm口径の望遠鏡
惑星はあきりめ、アトノメタ、700mm、M42とOrion
な天体も見え、その間、あらし群と思われる火球を3つ見
四つは火星の軌道通り火星と同等の光度で痕を残した。

4日 朝、田中さんと [redacted] に会う。夜中に到着したよう。
9:00にミキサー車に乗って玄関のコンクリート打ちをする。11:00
半沢さんの紅葉見物に四時川原谷に行くが林道で迷子と
なり、おちかか3・1.9で青野谷まで一向車中で田中さんに合流。
さんとおちかか食後紅葉を求め那倉川を経て湯岐温泉に入
り17時観測所にもどる。明日仕事のため、一旦帰ります。6日の開演
式にお会いしましょう。

追付:「火星」という本をくりました。1部500円です。交際に書いておきましたので

1988年11月4日-6日

4日夜曇

5日午前中雨,午後晴,夜快晴

いわき天体観測所南所式出席のため4日夜東京(上野)

を出発。 [redacted] 2人, [redacted] 2人, 西村 2人と4人連れ。

常盤線で来るのは初めての事。田中2人が車で

植田まで迎えに来て下さった。南所式の準備と

いさ事で一日早く来たので。久し振りの観測所の

を丸いなキックにビックリした。

5日の午前中は観測所のおさろじ。午後の置出しの

道すけらの紅葉も美しかったけれど。思いつける

素晴らしい星空に巡り会え、何度かいわきに来て

内で最高の天候を眺めることが出来た。

他の場合観が測にはたがたなりそうもありません。

11.4~6

No.

Date

11/5(月) 11/6(日)

市村

開所式といふは、仕事も道楽に切り上げ、急いで駆けつけた。
用後日、休学旅行の引舞の出張しなればならず、何か
忙しくも、あつたらしい場所であった。

久しぶりに、たかさんの仲間と会えてよかったと思う。もう少し。
時間には余裕があれど、祝杯を飲けたからだが、今回はけ
はとうにもならず、お先に失礼することになった。

(7日(月)、新幹線の中で読んで新刊に、開所式のことが出ていて驚き
ました。いまだ東京版に)

11/14(日) ~ 11/16(火)朝

14夜 15朝
晴 → 曇

15夜 → 16朝
曇 → 快晴
(晴は晴間)

工場の夜に果てた電線を止めたが、突然の来客をフイに
し、何と2日スレ込んでしまった。天気が下り坂らしいので、少
し散歩したのだが、この4月ほどの疲れをいやすには、一人でも
やうとすうかといふ思い、7212とまわって来た。

夕方、5時半に到着したあと、荷物を運び入れ、食事をしてから
双眼鏡をセツト。今の観測室では、写真が主なため、私のほう
で(視)を主とする人間にとっては、今いち、困り点がある。そのほかの
時間差攻撃で、こんな形の来所にならざるを得ないのである。

今回の来所目的は、双眼鏡の上に8mmのEDアプを載せることとした。
何と、"サマ"に写すというふうなので、中々いい!!と思った次第。

それにしても、あの北東にある牛舎の(煙)は何か持ちたいもので
しょうか。「カサ」がぶつかり、明子も持って来たいですね。

朝7時20分。娘のらごーの2-1に目覚める。何と親父行な女
しよう。学校の日は、1/3(笑)の出張の代休ということ。確認の電話を入
ておいた。明日は純粋な有給休暇。先ほどいふ労働者。どこか
リフレッシュしないと、体がもたない。

昼間は月極で食事から、棚倉までドライブ。(アツク入る入るに
行つた)

それにしても、天気が悪いと、マを走らしてしまふね。私の場合は、何と
読まなり書くなりして、何と時間を過ごせるか。他のメンバーの方はどう
しているのでしょうか。やはり、酒を飲むしかありませんね。と、いうわけ
で、置いてあった酒をいたたいています。2月3日の18Lを飲めば、ちよ
とキツいのですが、これから年末にかけてのトレーニングを兼ねておぼ
うと思ひます。(時間をかたれば、何と飲んでしまふ 狂 えるの...)

52. 突然、話題は変わるのですが、例の「多明の90ヶ」も、1ヶの海外で
天体が多いので注意しよう。と、いって、写真屋さんには関係ありませんね。
私は、一枚では、20mmの反射を使っています。時々、40mmにたいせえを見
てワタエリマタことあります。詳しい星図は、いつか手元に必要ですね。

5:15PM

外は風。雲。月。彗星はきつと、いらい...と思つて飲んでしまふ。

5:25PM。10分以内に快晴。どうしようか...。双眼鏡で何と見ても、
あとで、もっと飲んでおき、と、涙も(視)といふは、こぼして。

結局、朝まで晴れ、1時存続したようです。12時~3時までは
眠っていたので、わかりませんが、茶後の状況から、もっと晴れたいと思ひます。

私は「晴れ男」ですね。

1988 11 19~20

気温-15℃ 天気 うち曇り時々 本曇り

今度の週末は土日休みだが、月が大きいので家でゆくりすごせると思っていたのだが、またまた来所するハメになつてしまった。それと言うのは前回 田中さんがサーベイした写真に又天体が写っていたからである。もちろん又天体と言うのは彗星状天体の事で、一時間間をあげて写したネガでは又天体の移動が確認できたと言うのである。田中さんはすぐに香西先生に連絡すると同時にそのネガを天文台に持ちこんだのである。しかし国内では天気が悪く、海外でもどういふわけか確認されず、週末になつてしまった。天候と月齢の関係から自分で確認するには今夜しかないというわけで来所する

田中さんの車にのせてもSマテ。私もやってきたのである。しかし私は風をひいており、のどがいたく体がたふるい、そんな悪コンディションの中、無理をして来所したのだが、天気が今一つだということもあって、撮影に力が入らない。もうろうとしながら数コマどうにか写したが、やはり体調の悪い時は無理をしてもしかたがないとつくづく実感した。昼に目をさますとみぞれまじりの雨が降っていた。これがS 田中さんはフィルムの現像をするというのだが、はたして写っているかどうか。もし写っているれば又天体さゆきは終るのだが、---

1988. 11. 19-20 晴 → 曇 → 大雪
気温 -0.5°C

田中

星の日の曜日に撮影したサーベイ用フィルムから水曜の
夜に X 天体が見えた。木曜日に位置測定、IAUへ
の通報をしたが、金曜、土曜とまったく返事がなく、
はたして何だったのかいまだに不明のまま。そのため、
月の運動量から土曜の夜に位置を推算し、そのあたり
りをチェックするため、上弦の月ばかりの中をパト
ロールして回ってきた。天気がいいので、西から雪雲が
巻いてきたり、350mm望遠鏡に載せた 30cm x 40cm 16mm x 4
mm コントが屋根にかかるとなったり、はたまた月の
光りで、フィルムがカビだらけになり、X 天体
のチェックは骨が折れる。5分露出程度ながら、
はたして予定の区域の撮影を終えたが、
はたして、写っているものか？

通報から3日以上すぎるとまったく返事が無い
というはよく、カメラも知りないが、今回の
撮影で、写ってなければ、私も女子らめよう。

(市村さんへ) および他メンバー各位。
※ 市村さんの言っていた、井舎の外火釜に
ついては今日、持ち主が来所していたので、
スィッチをつけてもらうように話を付けました。
ここの月位の間に工事をするとのこと、次
図から、また「ま、黒な空、を取りもどす
でしょう。

※ 今年も木口70の氷を落としてしました。
来所の時は氷を持ってこまか、来所してから
高坂さんへ水もどきに下せし。

※ 70mm口径のガスを使った人は必ず元栓を
締めることを忘れず！

1988. 11. 2-3-4-5

田中

天 2-3 快晴 気温 3.0 → 4.5
3-4 快晴 → 快晴 1 → 0
4-5 曇り

先週来未時(満月!!)にはなかに大雪が、今回は
とこどとこに残っていた。やっぱり今度の冬は大雪
になりそう。気をひきつけておいてこなければ...
ここのとこ。土、日と東京での仕事をこつに
して、ここにきてきている。ここで「ドーム作り」を
やるため。隣の建作業小屋を工場に改造中だ
ある。しかし、もし雪が多いうたとはたして
作業ができるかどうか心配で、早々に材料の
搬入をやらなくては...

※隣の建小屋の電柱にスベキを付けました。あかり
が気にはる人は消しに行、て下さい。しかし夜は犬に
注意。

今度もここでの生活は大忙しだ。昼食は現像
社検査、雑誌用の原稿、コンテ-4-15出、そに
作業だ。とてた山の生活はめんどりだ。

1988 12/9-11

天気 2夜とも快晴無風

11日 PM 8:00 今が帰京します。帰りがたくな〜い!

1988. 12/9-11

同上

1988. 12. 9-11 天快晴 気温 -1.5 ~ +1.0

田中

この2日間、まったくいい天気で、星々もきれい
でいた。やっぱり、この季節が「いい」で、星を
見るには最高の時だ。
例によって私は相変わらずの大忙しだ。
東京で現像するところがないので、おいて、ここで
丸理して帰るため、現像、補正、加工、撮影、
と、その忙しさは女さけるほどだ。
そのうち、写真撮影はま、たかたかして、たいてい
過ごせる時(とき)も作りたいと思う。
さうから2時間ほど仮眠して、朝、仕事場へ
直行の予定。

快晴

12 / 9. 10. 11. 12. この時期にうそみたいな日程の 市野 へ。

学校の期末テストに入るまで、3日間休暇をとって3泊4日の観測所ライフの実現です。例によって、星野も巻玉さんごの来所です。忙しいときにうそのような日程ですが、まあ、

夜は、だいたい晴れがはなしなので、東から西まで（北を除いて）、ひととおり観望しました。ただし双眼鏡でなので、高度40°くらいまでですが、双眼鏡は首から肩が疲れまう。

眼視観測というのは、非常にデリケートな面があるようで、いつも、同じ調子で見るとは限らないようです。12cmの双眼鏡で、ベストの体調、最高のシーイングの時は、10.5等級、3'まで。左目が近視で乱視、右目が遠視で乱視、という私としては、以上のところが限界のようです。但し、視野の中央に入ってきた時にかきりまうが。

△トク

今回は、安物ではあるけれど、^{△トク}スズキをいただきました。ボートスが出たので、「おかあちゃん」に小遣いをもらい、すぐ買いに行ったのが、お水を知りや、もう、お金は持たせられない、と言われてしまった。もう、残り少なくてから、イライラ!!

さて、今日の来所におけるヒットは《名糖 アールティー》です。なかなか、オシイようです。

少し、丁寧な字で書く!! と思いたけれど、やっぱりムリですね。お水にしても、メンバーの字が、お水が、何と個性的なことで、よう。案に見ていて飽きません。

次の来所は年末の29日くらいです。11月11日 祝日!

もう書くのは、やめようと思いたのですが、11:00PMに目覚めると、誰もいない（星野はとこの行った!!）ので、アールティーでも飲みながら、目覚めのアールティーを飲むと思いたったのです。（と思いた、アールティーを飲むことにしたよ、マック!!）

外は、お天気が、快晴 全開です。今夜8:00くらいまで観てから帰りまう。北天を除いて、だいたいみえりまうので、これを何か現物でもアライマフマフ早。冬休が来ないかな、と子供のようなことを考えている。その前に、いろいろと雑用があるのだから、

早く風呂かできると、いいなあ、と願切に思う（今日）です。

ここに来ると、楽しみがひとつは、「日記」を見ることですね。でも、他に、いろいろ書きたまう。観測できない夜の大切なお友達です。

夜中、起きてみると、観測所の周辺を、何者か、飛びまわっているのを知っていますか？ け、猫くらい、^{△トク}感じがあるのだから、はたして何でしょうか？

キツネ、タヌキ、ネズミ（猫くらいか？ ですか...）、and イタチ、かな？ 次回は、ワーライトのようものを持ってきて来て、カーベイしよう!!

とつせんでは、やはり日本酒は飲まない方がいい（とうと と語り合いました。スズマサイ、休となく、あ、味が、わ、い、感じなのよ...。と言いつつ一本飲んでしまったのだから...。

飲んで、その朝まで観たのだから、 は眠ってしまた。（根性なし!!）

何れ、世間では、ちやうど理解できない人種は、あると突然、思いたった。誰をさあ？ あなた、あなたです。（私です）

Written by, Ichimura.

『 氏に火をつけたのは誰か』

評論家

この作品は、市村氏にとっては、最初のミステリードキュメントであり、文芸評論家であったはずの氏が、(一部では、何も書かないので、ただの大家作家と言われている) 節を屈して世に問うた傑作である。

話は深夜のことだ。市村氏は久しぶりに会ったミナと暗い一室で、寒々とした抱擁をしていた(注:屋根の無い部屋のため、星が降りよる寒いところなのだ)。両手を冷たい顔をはさまるようにして抱え、そっと眼鏡をかけた顔を近づけると、ミナはガチッと固い音をたてて応える。まるで、何も知らぬ少女のようなそぶりに新妻氏はふるえた。寒い。ここはまるく北国だ。ストーブがないと凍えてしまう。そうだ。母屋にはストーブがあったはずだ。あれをつかおう。新妻氏はミナを暗闇に残したまま、ストーブを取りに出かけたが、ミナは黙ったまま、星空を見上げていた。

数時間後、母屋にいたキヨル氏は、何かか焦げるニオイに目が覚めた。ふとんをほろあけてみると、どこも焼けていない。よかった。カキロではなかった。シミは下着をみた。よかった。ドントでもない。じゃあ、いったい何だ？ あたりを調べたが、別に変わった様子もない。気のせいかな。そうだ。そうに違いない。

 氏はアセッていた。暗い部屋でミナを抱いていたはずなのに、気がつくといつしか、自分の羽毛服に火をつけたのだ。熱い!! ミナ、助けをくれ!! ミナ、ミナ!! 絶叫する 氏に、ミナは冷たく背を向け、夜空を見上げていた。切ない声が飛び散る。こぼれた羽毛のように宙を舞う。熱い。赤く燃えたストーブが二人の間にある。あざ笑うかのように燃えている。そうか、俺は眠ってしまったのか。最低だ。ミナを放り出したまま寝込んでしまうなんて...

話はここで、とうとうに切れる。市村氏によれば、余情効果を考え、あえて、ここで筆を置いたという。

何ほどもあれ、象徴的な男と女の物語であることには変わらない。ここには愛の不毛という真実が、暗い夜の底で、赤い光を出して笑うというアイロニーが、みごとに表現されている。しかし、いったい、どうすれば、あんなものが焼けてしまうのであろうか。心臓の裏上。やはり、泣き声か。

1988.12.17-18

↑ 氏の指定場所に食器棚を置いたのは誰か?

・最近 いわきにきて 最初にのどくところは 台所である。以前は 4畳半にスリ すぐ着替えてしまうのだが、本日は かわって 台所で 一息いれたいという風にかわっていった 様だ。

↑ 台所にまず一番にいくのは

ボクの場合は 大事な大事な命より大切な ミナ様がいらいやるので、まずは 元気でいらいやるかどうか 石確認 するためののだ。持ち主が 1ヶ月に 1-2度しかきてくなく て寂けて家出してしまったのではないが、はたまた 誰かに 誘拐 されていらないかどうか、病気をしていないかどうか 気になり、 いの一番に 台所に 直行するのだ。

というわけで、今回も 台所にいらいやる ミナ様のところへ 着くやいなや 直行したが、ミナがいない、ミナがどこにもいない、いつも うつぶせに寝ているはずの場所にいない。ボクは あせった。あせった。よくみると ミナがいつもいる場所に 食器棚が ついてあるではないか。なんだい こいつは! まが ミナ様が 食器棚に 化けてしまったのでは とあせった が、あのかわいい ミナ様が 食器棚に 化けてしまったはずは ないと 気をとりなまし、早速、捜索に くりだした。ミナは なんと 4畳半の コタツの テーブルの上に 裸に され おいてあった。誰だ こんな ムゴイことをする 奴は! 台所に あれものが 4畳半に おいてあるということは、少なくとも 4-5m は ミナ 様を抱いて 歩いたということだ。私に 無断で エルセナイ。セッタイ エルセナイ。犯人は 誰だ!

・今回の来所は お久しぶりの さんと いつもの さんよ きました。いわきについたのは 10時頃で、月が沈むまで 時間が あるので 台所で 一息いれ、1時頃 から 観望 を はじめましたが、寒くて たまらず、少しみても 台所に 飛びこんで 暖をとる という 状態で あまり 観望 出来ず せんでした。観望所に ストーブを 持ち込むと また 痛いめに

じゃなく寒いめにあうのでやめにしました。
。今回はじめて いゆきに来てアルコールとやらを飲みま
せんでした。ついにアルコールの誘惑より ~~飲む~~ 飲む気が
強く [redacted] さんの声に一度はおきかけたのですが、
ダメでした。これはめずらしいことでもあります。近々何
か悪いことでも おきなければ"と"思っております。

1988. 12. 17-18

今回は 3度め 2年ぶりの来所です。ちと来ること案ができました。
今年梅雨明けが早いなんて予報が早々に出てたので 7月には
倉の屋根が漏れと書いていたら 予報が見こにはずれてしまい、
秋の嵐接近には たいはうがかと思ったら 秋の長雨になってしまい、
観測には こんごは年とした。来年は ぜひ 晴天降にぬまいたいですね、
よく考えてみると 3回来てはらち全部 12月なのです。 ~~来所は~~、
ここは冬の晴天降が いいからと 思うけれども 引きつけられる
何かがあるのとはなしのしょうか ねー。
でも今回来てみて ほんとにびっくり、 ~~これ~~ ^{うしろ} うれしかった。
いろいろ雑誌や新聞で いゆき観測所のことは見てたりはしていたのですが
実際に来てみて、完成したところを見ると、メンバーには 入っていないけども
ちと出来あがったという喜びを感じました。実際、観測所を作るのに
たまたまやってた方は苦勞が多かっただけに 一層 どの感謝があった
ことと思いき、ほんとに おめどうございませう。
気持ですが、ライオン dance かいじゆうの足の スリッパをおいておきまのど
付って下さい。やはり 足元から 冷えますから。
ところで 観測の方は といひます。雪の上に P-ZE で、~~スリッパ~~ して
屋簷野写真と 数枚と、上にあがって ニコンの ED で M 天体を 数枚
写しました。出来上がりが楽しみです。

p.s. 会員は 何れか、まちがって 25000 円に書いて
しまいました。どうも お許し下さい。

[redacted] さんが 30万円を 12月 25日

吹雪の5

1988. 12. 16-17-18

天快晴

気温 -4.0 ~ -5.0°C

田中 [redacted]

12月になり、ここに来るたびに寒くなり、雪の量も
ふえてきた。いよいよ 真冬の到来だ。そこで"い
西の台のは 冬型が非常に強くなった時のこの
雪の具合である。なにしろ ここは 裏日本と表日本
の境目だし、所どころ 寒気がちよと強くな
ると 吹雪になり、2~3時間でおさまり、
すく快晴というパターンが めずらしくないのだ。
だから、吹雪だからと、眠る訳にはいか
ない。皆さん 決して、着いてすく 酒盛なく
て ちよめましようね。天気のいい時も ねは"
曇った時 必ず後悔します。

1988年12月29日(木)~30日(金)

快晴

高橋 [redacted]

29日、今年最後の仕事を終えた。3時と急に星がみたくなり、突然いおきに行くことを決めた。

1泊2日の日程で、月(下弦月)と星を見ながら忘年会をしよう。そして帰りは昨年同様に小名浜漁港で新年用の新鮮な海産物を買って帰ろう。ということに準備をしたのである。

さて、行く前に観測所にTELしてもたれもない。そこで田中氏にTELする。そして、これから行く旨を話すと、今日は、月もあるし、--- 東京は曇天、--- たんたん、行くとも星も月も見えないからでは、いん気になってしまった。さらに雪があるからフェーンを忘れろのように、というので車にフェーンを乗せ、とまかく出発した。

ところが、いおきに近づくと、雲が切れ星が夢に見わけて、快晴となった。途中の289では、タヌキ子で現われ、驚かされた。

到着して、すぐに30cmの接眼部を眼視用に交換して冬と春の天体を観望し、満足したので観測終了した。

そして寝るとまもなく、地震でビックリ、震度2-3ほどしようが、653人被害はありませぬでした。

30日、PM14時、今年最後に行きであらう、浩天の星空での観望を快く、帰路にたつこととする。

今年をお迎えください。

1988、12-31 天 べつ星
田中 [redacted]

1988年最後の来所ということで、「天つごもり」の本命星と来所。しかし、今回は^{べつ星といふことあり}昼間だけ寄って夜は浅奈の宿で過ごす予定だ。

豊田の地主さん、高塚のおじさんかところへは途中で「おみかげ」を持って年始(0?)の女いけつをすませた。したがって

[redacted]へ

地主の豊田さんへの女いけつは2人で「行」て下さい。

※女と私の来所は2日か3日の予定で4~5泊の予定。

11~
1985.1.2

あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお願ひします。
お正月の来所は久しぶりです。前回は結構^{人が}いて
騒々しかったのですが、今回は市村さん、
さんと私の4人ということで、実に静かな
お正月であります。お正月に存といわきに来所される
さんはどうしたのでしょうか。お仕事が忙しいので
しょうか。

私がくるときはいつもいる田中さんもおいません。いつも
と違ってこんな時があってもよいでしょう。

今回は久しぶりに実家に帰るので、今日であります。

谷中彗星は残念ながら12cm双眼ではみえませんでした。
次回の来所(16)の時まで成長してくることを願っています。

1989. 1/1₉₇ ~ 1/2 (9A)

市村

9時、2F、コリ [redacted] さんが顔を出した。何と下の道を通った。5
時頃までかけて中々来たという話だ。えらい! 真白本(日本海側の人は
こう言うところ(おこり)の天文家の鏡!! とは、カックなことに
新彗星が発見されたという。しかも東天、日本人、何と9等、単独発見!
子。1988年中の発見というので、アツアツと頬は絶えてしまおう。

16/72山へ出かけるといって [redacted] さんを庭先に引きとどめ、市村特製のテー
ン(何と、モク2ヶ入り)を食べて、さる、さる、と思いきや、雲隠れ。
結局、夜半を過ぎかば回復するといっ、りかき性と判断し、むたが
飲んで待つことにした。飲むのは6時向と30分にして、月の出とヒトに
空は快晴となり、目的の谷中彗星を待つが、待つと目、待つとも見えて
こない!? 本当は9等? ツいに [redacted] さんが執念でとらえたが、
2弱10等くらい(市村は1と判断→双眼鏡で見えないから)と
いって。残念ながら、12cm双眼鏡では確認できず、同等し
てあり、8cm 屈折 50倍で確認してしまつたという、ヘンなことに
なつてしまつた。(この2は 渡辺氏は120倍だ、たし、20倍の双眼
鏡が手に入らなかつた...)

1/2 (昼) ~ 1/3 (朝)

市村

10時半に目覚めた。外を下り下りして、[redacted] 氏の 移動天文車
アトレ-4WD を下り下りしてやる。何とも 言わく言い難い世界
である。ひたひたに名茶を待つてあつた。アストロカマ。

簡単な食事をしてから、[redacted] 氏は 群馬へと 旅出つ。忙しい人だ。
[redacted] 氏は [redacted] 氏を 送って 行く。私は 実家へ。目的地は 風呂。

夕方とマ-4 を 駆り 289 を 進行中。対向車に 義姉の 顔を見下ろす
下見が して した。直ぐに 何と 5分 に 12 分 前には 敵を 打ち下ろす。せめて
りやうだ。ドライブから 観測所まで 来たらしい。7分 中には 妻と
姉、先には 何と 6人 の カキ子を入っていたのだ。

私は、再び 観測所まで 戻り、ちよと 案内して 行く。実家に行くことにした。
何と 4分 時間 不要して 行ったことか!

実家から 観測所 へ 戻ると、空は 快晴。しばらく 観てから 田中氏の 来り
のを 待つが、田中氏が 早く 帰るやうに 始めようといふ。曇り して しまった。
その 後は、11時 前には 飲めや 飲め の 下駄を 叩く。さやかの
宴が 始まった。ビールを 3杯 ほど 飲んでから、手は 天気が かわらないで、
手は 寝ることにした。

4時、「見えない」 という 田中氏の 声で 観測所へ 出ていくと 快晴。
朝から 観て いた。やはり 谷中 慧星は 12分 双眼では 見えない。この
うち、二いのは 嫌いな 好い。

1/3 (昼) ~ 1/4 (朝)

市村

(忘れたい うちに 書いて 置く こと と思つて、この 日に 書いて いる 人が、疲れる。)

1時に ほとんど 出た。食事を しようとしたら、[redacted] 氏は、ごはんを 食べ
るやうに、せいぜい、妙に 楽な ところの 何い 間を 細豆と 味噌汁を 食
べる。(あつた 飯が 残つた。)

夕方、風呂に行く。ワインを 1.0-L を [redacted] 氏の 運転で、[redacted] 氏は 可
しかし、気分が 良く 乗る。でも、車は 7分 ほど、7分 ほど して しまつた。
スタート して 夕方 まで いる!! — と、[redacted] 氏は 言っている。

体温を 吸い 取り 水やうな 風呂で、カッパリ (ヒヤ) した あと 急いで 観
測所 へ 戻り、2 食。カレー、おいしい カレー。何と いうか 20 倍。

[redacted] 氏は 曰く、「私も 食べた ことは ない 人だ けれど、体が あつた 子やうに 好
気が した ため、少し だけ 食べた ……」 と。

説明書 にも あり、辛さ 10 倍が、水で 飲む ときは ちよと 無理な 辛さ である。
20 倍では、どりどり かつ 全体に 辛さが 駆けぬける。手には 口中
火の 車。それ かわり ワイン と つけもの。火を 噴き 出す こと には した。
ドライブ カレー と 名茶 を つけた。観測所 へ 来た 人には、せめて、こち
した もの である。(確かに 体中、熱い。汗を かく こと した ……)

夕方、よく 晴れて いた ため、田中氏が フルムを カット して 始めよう といふ。
結局、回復 しない 様子。私は 今も 食べて、こちを 書いて いる。11時 21分 前には、

[redacted] 氏が 仮眠を とり 始めると、空が よくなった ため、2 時間 ほど、[redacted] 氏は、11
分 NGC Objects を せら せて、どうも 本やうに 空を、イマ行 した ため 透明
感が あり せん。12:00 AM に 夜食 として、てんぷら を 食べ、あつた 時間 だ。
上には 雨が、雪が 舞、つた ため、ルーフを 閉めて、4 時 ほど 寝る ことに した。4 時 ほど
[redacted] 氏の 「快晴 だよ」といふ 声に 出て 行き、最高 空!!

1988. 1. 2~3

田中

昨年暮れ(山が 4月ほど前)に発見された谷中
彗星(1988r)ははたしてどのようにもってきたので

あつたか? ^{よれが}今現在の私の最大の関心事だ。

というのも 11月26~27日にかけて(満月直後) ^北西天

のこじ座のベガの南あたりを30秒~4分程度視サングラス

していた時、変なものを引掛けたか?。もちろん

3人ずつ写真を撮ったが、折りがさ降りせよめた

雪のため、確認できるほどのベガが得られなかった

のであつた。もしあれば、今度の谷中彗星と同一の

ものなら、私一生の不覚となるだろう。

本日、群馬の小島卓雄さんに依頼して、軌道要素

から逆推算してもらったところでは、11月の末には

地平線下で見えなかったもようとの話を聞いたの

だが...

^{私の}それにも、^{他の人の}写真検索内からの発見はたんと(しても) ^{2/4)}

1989 1/1~4

いわき天体観測所の皆さん

新年 あけまして おめでとうございませう。

今年の正月は、月もまあまあ良かったので観測所で

ちごすことになった。しかし天気の方が3晩とも

同じパターンで、昼~夕方快晴、それ以降は

雪が舞う雲り、そして明け方4時になるとまた

快晴という天気であつた。この天気は1月以降

一晩中快晴にはなさないのではあるだろうか?

それでも今回は新彗星谷中を観測できて

良かった。むしろふりの明るい彗星であつた。

1/4 AM 6:30 道が空いて11時5分に帰宅。

1989. 1/4(OK) 昼 ~ 1/5(天)

希珍

10時半に目覚めると、田中氏はすでに現像に取りかかっている。お子ここの寒い私は、おにぎりやレンジで暖めて、味噌汁で朝食。

その子で台所で、持っていた雑誌を隅からスミまで読み終る。あとに残っているのは、Englishの卒と文庫だけである。(これがメインのテーマ)

1) そのこと、雨の雪か、とっちらかいいから確実に崩れてくると、一度埼玉へ帰ってここのことが、ほかほかそうは問題が卸してくれようもない。10分がないので、再び読書。

お手にも暇な感じ、とうとうビールを飲みはじめた。その勢いでフットに入ると、しばらくは眠れるほどつらさのせいであった。

7時に田中さんが食事に行く。フットから出てみると快晴。しかし、田中さんがもどくと曇りはじめ、準備を始めた。ベタ曇りであった。雲の向をぬいて、眺めたりして、視野は冬型の天気が強まるせいか、白くく、全然見切れるではない。何だか、ココに居ても任方がぼさぼさな気がした。

お手にも暇な感じ、とうとう家に電話をすると、妻が、よく晴れていよさという。これは、帰るしかない。少しは、光景があつても、秋夕で見え方がよさそうだから、というわけで、予定をくりあげて、帰ることにします。

谷中慧星の連続発見はソリタラシクはあつたものの、それだけの刺激を与えてくれた。胸中、期待するものがあるが、秋に今後の励みとしたい。

本日 朝 6時30分
天皇 前御

1988. 1. 17. ~~皇~~昭和64年は本日まで

明日からは平成

64年にわたる昭和が本日終った。

田中、車のラジオをつけ、はははにいて世の中の動きを聞いた。

結局、2日から本日17日まで、6泊したわけだが、長かったような短かったような? 妙に正月だった。それにしても、ココでの生活は忙しい。

現像、ネガ千エックまで、一人でつとめて目もあつたような気がした。

2つの谷中慧星には驚いてしまったが、

片の途中でのことだから、仕方なくあきらめもできよう。

なるべく広範囲にサーベイできれば、いいなと思ひ、新システムで、今年もやり続けよう。

1989年1月14日~16日

21時 新宿発

田中さんから「運休に観測所へ行くよせか」とお声がかかって
 思ってもみなかった観測所行2か今年早々の実現。
 天気予報は決して良くなかった。乗車は7日に昭和の天皇が逝去地
 である慶天詣り。だから一日でも晴れればいいという無欲の心で(?)
 出発した。田中さんの「晴れなきゃなあ」の声は西側を見れば半月が
 大きく横傾きのか見えて来り大喜び。たんなる星の数もよす観測所へ
 着いたのは満天の星。今夜は眠りつもりでいたのに早く観測準備に
 入った。NHKの取材もあつたり(バラエティのあつ) = 日商アヒ。
 二夜で観測したのは zoom = 2トーンで観測谷中習星、これは田中さんの
 観測下だったもの。翌日は人もすぼら(い)けど 望遠鏡でとらえる
 人もすぼら(い)とたの感嘆すはばかり。 [] さんが木星を観測した。
 16am よりもはかんだ大2に4つの恒星を捉えて西の空にいた。
 その他オメガ星雲、プレアデス、ちび……。自分も双眼鏡で16amに
 月を又見た。新しき星雲もいくつか屋にたの(い) = 日商の観測所
 でした。同行は田中さん、 [] さん、 [] 君、晴水女(?) [] さんと私。
 []

1989年1月14日~16日

久保田さんからお誘いの「Tei」をみた時は週末の天気予報を
 ほかほかにくたく何となく1170程度浮かぬ気分でした。
 でもNHKの取材があるというし。(たいてい言うとお出たがり誤解
 されるかもはつせん。自分でほめておいて「アヒ」と思っているのよ)
 何かたまるは不都合なことは「お」無欲の心が良からアヒ
 (お)が、車が「かま」近くおたつると西の空を見ると
 雲の空の向から半月の月がコウコウとして輝いていました。
 運転席の向う田中さんの言葉「おは快晴です」に
 ヤッパ!! 東京はたかたに曇っていらつた。日頃の行いか
 しいとこんな時に幸運がやってくるかと思つた。
 久保田さんのお料理もかまかたし(私も食事係でした??)
 二晩美しい星空にたか「お」最近打撃があつたよつて。
 -50の寒風の中耐えたかまお ちびや北斗七星も充分
 りかたつた。望遠鏡で右田さん「お」したおた 木星と
 りたかたに一直線に並ぶ4つの恒星には本當に感激(お)した。
 「今年に望遠鏡にたかたかまお」とおたかたにたかたつた
 今日おホーッと望で終つておたかたつた。
 一生天気の「お」もつら。何となく眠気もたかたつた
 いたおたつた。
 []

1989年 1月14日~16日

開所式以来です。今回はヒアオを4枚、2枚を
 晴れたいと思つてカマを2枚を、晴れて1枚を
 非常に残念である。14日夜は曇り、月をヒアオ単独で
 撮影した。左のヒアオ果はあかす。観望を徹し
 した。3時頃、雲に束を2枚、4時頃か
 晴れた。田中さんの話。2時頃、NHKの取材
 人が取材に2台のカメラ、ストーリー、カメラマン
 行かれ、終了。うすか、見ると、かなりの作意の感
 があるか？。取材中は少しは晴れた。大してよく
 月、木星と見ると、夜半過ぎ、月が、おれ直前に
 31の月を27x1撮影。4400では月面の一部の撮影
 できず、少し早に木星は27x1の程度に生じた。おれ
 ヒアオは感度不足で星野撮影は無理で、月、木星のみ
 撮影。晴れたら、カマは2枚、2枚！

1989. 1. 14-16

田中

今回は特にNHKの取材ということで
 数人に声をかけて2台の車でやってきた。
 取材する人は慣れているので、おれは慣れ
 なくて、少し、あかす、しまった。
 2つの新彗星谷中のみ、1988年は尾は、きり確
 認できず、10等前後と、たか、もう1つの1989aは
 は、きり確認できた。

1989 1 14-16

開所式以来である。気圧配置は北高型である。
 16日の3時過ぎから6x3200 (6x7)で「谷中」を撮った。
 開所式以来、今回いい。健康的な食事、やったね！

1989. 1. 28-29-30. 快晴 風強く

28日 -8.0°C ~

29日 -3.0°C -

田中 [redacted]

先週 東京での新年会のため来所せず。2週間ぶり
の来所。どうも毎週来はいい。なにか変は感じの
気がする。ドゥい^いは生活の一部に~~な~~なりつつあるかい?

月曜日の大雨(東京では)の時。ここはたぶん

大雪だ~~ら~~った~~ら~~うと聞いて、積雪50センチは覚悟(に)して

きたが。ここ1週間向の間に溶けたのか。30センチ程度で

少い気がする。しかし、我が妻には良かったようで

道路から観測所まで。ラッカルせずにとどりつけ

ので。こちらは良かった良かった。

今回は女房殿(同伴)のため、と、ユニット現像機

を入手。現像タンクを売ったため、マシヤ250ミリ

ボケ2のF-ベイスを月曜の夜に実施。01時から

マシヤの特性風成を写しとめた。

1989. 2. 4 ~ 5 (土) - (日) [redacted]

ウームッ! どうも今回はいまひとつまじめに星空をながめる
ことができなかった。仕事疲れがもしない!

そんな時には今までだったら星をみれば、吹き飛んでしまっ
たけれど、今回はためだ!

それに今回の星空は全然よくなって最悪!

次週は 仕事はほとんどにしてくるぞ!

1989 2/4~5 [redacted] 夫気 晴れながら雪
時々曇り

結局 1月は 1回しかこれず 1ヶ月振りの来所と

なった。1ヶ月も来ないとずいぶん久しぶりだなあ

という感じがしてしまう。今回の目的はKAKO

観測所の260のセッティングであつたが

やはりけっこうむづかしく、またまた時間がかかり

そうである。

1989. 2. 3 - 5 天<雨>雷→快晴

田中

今回、ラジオを持ってきました。何人がで"過"す時には不要ですが、一人で"過"す時には、世の中の重さを知るためにも必要かと思、たためです。

今回もサーベイを中心にやってみましたが、後の処理(現像、プリント)が大変で、非常に疲れます。しかし

X天体は写、てはくても、きれいなネガが"仕上がる"とねんともいえぬ喜びに変わります。こんな天候は異常でしょうか?

ネガのキレは体調の良い時ではないと、なかなか大変です。それに、という間に時間ばかり過ぎがてします。

今夜も快晴、しかし、明日の仕事のため、これから(20時)寝て、深夜に起きて、少しサーベイして、朝4時に帰京します。

1989 2.10~11 (金-土)

東京を出発するときには、天気が悪く雨が上がったばかりだし、斎藤さんの話によると、いわきの方の天気もあまりよくないとのこと。今回は、やっぱりいこうとことになったのだが、万が一晴れていたら、大変だということで、やはり、高速を使わず、~~金中~~使って、那珂インターで降りようということになった。しかし、走っているうちに、気が変わり、土浦インターで降り、費用を浮かすことになり、まさか今日は晴れていることはないと思ってたんで、賛成しました。

いろいろ話しながらか走っているうちに、だんだん天気がよくなり、星も見えてきました。今回は、着くなり、すぐ"寝た"なと決めこんでいたので、マズイなあ~と思って、うちにだんだん、ネムくなり、気がついた時には、いわきに、着く直前でした。

なんと、少し世空に雲はあっても、快晴! 本当にきてみないといわかんものです。

2時頃、例のミナちかんで、星空散歩をはじめ、久しぶりの、ビューティフルな空を眺めて、感嘆し、世の中、会社のこと、忘れ、別世界に入っていたのですが、30分位したら、だんだん寒くなってしまい、どうにもならず、暖をとらないと、どうにもないので、少し見れば、暖をとるといことになってしまい、5時までの3時間のうち、星を見てたのは、1時間位という結果になってしまいました。1時間で、見れた星空は、ほんのちよっとで、本当に星空の広さを改めて認識した次第です。

今回の星空散歩では、星田、星雲の3個をみつけることが、でき、そのうち、写真等級8.5等位のものも、みつけたので、ますますでした。しかし、今回は、本当に寒くて、たまりませんでした。観測所の前の庭で、やったのですが、雪が、つもっており、その

観望場にシートを敷いて、その上で、ガンバツた訳です。

今夜は防寒対策として囲いを作る等^①して
充分に観望に打ち込める様にするつもりで
います。

1989.12.11 ~ 12 (土-日)

観望した後はいつもの宴会を [] 氏とやって朝7時
過ぎにネタ。起きたのはボクは10時30頃で“その後
は音楽をきいたり本を読んで” [] 氏の起きるのを
待った。 [] 氏が午後1時半頃 田中氏からのTELで
起き出す。ボクは台所でイスにすわってネタしまつて
気がつかず。

今日は月没が23時頃なので ゆっくり出来るので
本を読んだり音楽をきいて過ごした。

観望は19時前からはじめた。いつも見るがもし此
ないのでも月が出てくるとも 兼行したのだ (今は
月が出てても観望、観測しないとなかなか彗星を
発見出来ない状況になってきてる)

ところが1時間位 [] 映めしを食べたりしたら
くもってきてしまい、13時頃ネタ。

午前1時頃 [] 氏から晴れているとのことで起き出し
てまた観望。今夜は気がなく観望日和。
1時間位みたあと少し横になって仮眼をし
たのだが、目が覚めたのは5時!

ああ、なんたることや〜!
もう書くのが疲れたし、何を書いているのかわからない
ので、終わりにします。

2/10 ~ 12

天気 10日夜 AM1:00以降 ト快晴
11日夜 晴れ時々雲。

10日夜 東京を出る時 天気が悪いので 中止にしよう

かとも思ったが (予報は曇り時々雨) とりあえず来て
みたら S ト快晴で 透明度も非常に良かった。

R289は所によつて雪がある程度であったが

林道に入るとたん 5~6cmの全面雪であった。

しかしフルタイム4WDとスタッドレスタイヤのおかげで

スイスイと観測所まで来れた。冬のいわきに来る

には それらは必需品である。

観測の方では 260mm口径を E200 800mm 10分ノー

タッチガイドでもるまでセッティングをすることができた。

やっぱこれか S 本格的な観測が可能である。

1989. 2. 11 ~ 12 雨晴時々曇り
 気温 $-6.0^{\circ}\text{C} \sim -7.0^{\circ}\text{C}$
 田中 [redacted]

朝(といへば昼の12時すぎに)トクニ屋根を
 叩く雨音(霽雪)の音で目がさめた。
 今年は雪が少ないので、この音で目さめる事が少なくな
 ってきた。久しぶりのような気がする。

昨夜は天候がいま15日からの曇り合効率良い
 撮影ができた。月期望全などへの観測の望星の
 キエツとサーベイ、そして前月のX天体のキエ
 ックと、内容的にはまあまあといったところが
 今年に入って、1月、2月と2回~~は~~新月が
 過ぎたのだが、近づく回数はまだ300回(望遠
 にも含む)程度しかやっていない。

3月のシーズ(新A)までで、500回程度まで
 行ってみたいものだ。

1989. 2. 26-27 天気快晴
 (A) (A) 気温 $-2.5^{\circ}\text{C} \sim -4.0^{\circ}\text{C}$
 田中 [redacted]

満月すぎってから、天気が悪く、けさまで雨。
 しかし、午前中から、すっかり晴れたので、いよいよ
 よ、モジモジしてきて、ついに月曜の夜ながら、
 またここに来てしまった。
 来てから、屋根の雪おろしたのだが、暖冬の
 今年は初めてのことで、屋根に積もっていた10
 センチほどの雪を降した。これで「雨音」
 を聞かずにすんだ。

? 結局、23時までの予定が、24時までして
 しまった。下弦の月が登ってきたので、終了
 したが、月が登ってこけかけは、まだまだやって
 いたかも?

後日によって、明日は仕事のため、こけかけは帰京
 後、3時半には限って、6時まで、2時半
 は寝る時間は取りきう。

1989 3/11~12
天気 曇り時々晴れ

今日の朝の夜空はまさに春の天気であり、
予報では晴れたのだが雲の量が多い。
もう今シーズンも終りである。

次に休日と新月と良い天気も重なって来所できるのは
何か^も先のことになってしまいかも知れない。
観測のうちでは 8200+ブローニーの場合の簡易
シャッターのテストを行った。

今日は用事があるので 早め (AM 11:00) に
帰宅する。

1989. 3. 10~12 3/10 快晴 気温 -3.0°C

3/11 晴時々雨 気温 2°C

月曜の夜である。

明日は月曜。平常どおりの仕事のはずだが
~~しかし~~ 月曜の夜 20時を過ぎてもここに
いる。

さらにこのかす、ここで眠るという。

人はこの人のことを異常星欲者という。

(場面は変えて)

天文電報によ^{ると} またもや ユーザー・ホリト
書聖が誕生という。さらに今度のは 13等という。
そして、もちろ^ん衝の位置、赤緯は $+30^{\circ}$ 付近
や、は、衝の付近を集中的にやらないではい
か? 私のサービイでは、向度で、赤緯 20° はす
べていて、かすかす。残念 //

1989. 3. 21(火) 夜 25時倒音 バク曇 気温2°C

3. 22(水) 午後から雪 気温1°C

3. 23(木) 朝雪 午後から晴 気温2°C~

3. 24(金) 曇り→雨 3°C

3. 25(土) 雨→晴

3. 26(日) 晴→曇り

今回、5泊1夜が、結局、晴れたのは1晩だけ
もうあかり、春の天気になってはいて、晴れても
モヤをかぶっていて、とても撮影などできょうも
ない。

またまた、11月までの長い休みに入って1年
のか？

天文快晴日と来所日がうまく一致してくれれば
いいのだが---

1989 4/1~2

1日の昼間の東京は暑い位いの天気であったが
いわざに来てみるとさちがに寒い。強い西風
もあり気温は1°Cまで下がった。そのおかげで
春にもかかわらず ドトド 快晴となった。
だが私はひたすらにE-200 16cm Vニットの
試写のみである。それぞれ5分10分露出で
星雲が何等まで写るかを調べるためである。
他には、ガン星が明るい(と言っても14等)
という田中さんの話しを聞いてとりあえが
写した。来週も来所予定ではあるが
天気の方がそうそううまくはいかないであろう。

1989. 3. 31 ~ 4. 10

田中 [redacted]

1989. 3. 31 (金)

雨 → 曇り

4. 1 (土)

快晴 → 雨 → 快晴

4. 2 (日)

快晴 → 曇り

4. 3 (月)

曇り 時々雨

4. 4 (火)

明け方前快晴 → 曇り

4. 5 (水)

曇り 時々雨 → 晴

4. 9 (日) 曇り

1989. 4. 22-23

田中 [redacted]

ふもとにはすっきり春も終ってしまつたというのに、ここはまだ、木々の新葉も全部は出そろつておらず、ここの春本番かというところだ。やはりこの春の見頃は5~6月頃になると思われる。

ドームの周りもある程度、形が整つてきた。

1989. 5. 19 ~ 21

田中 [redacted]

19日 曇り

20日 曇り → 雨

21日 雨 → 晴

山はもうすっかり緑、緑……。土も濃淡があり、同じ緑でも、色合いがまたく違ふ。勿来に行く途中にできた民宿「旅人」にコーヒー飲みに行、た、オーナーは神奈川県の人で、奥さんの実家が、現在地で、5月3日にオープンしたとの事。一泊半5,000-との事。

1989. 5. 27-28. 快晴 気温12℃. 田中 [redacted]

田中 [redacted]. 天気が回復してきて、曇りから快晴。

予報では、曇りのち雨ということだったが、どうも悪くはななななく、できる(星が見える)かも知れないと思ふ。鳥、飛んできた。20時半からサーベイ開始。

途中、雲が少し出たものの、なんとか快晴。

Aが出る直前(24時すぎ)全天で曇り。天気が回復してきて、予報は曇り。明日は予報が曇りのち雨。

1989 6 2~3日

天気予報では晴れの天気が3日ほど
 続いていたが 現実のいわきの空は
 夏晴れつまり雲りに近い晴れであつた。
 たぶんこんなことだろうとは思いつつ
 わががな望みと望遠鏡のXVテナス
 にやつて来た。そして 昨年せつと思つて
 まきそこねたタネまきを kAko 観測所の
 周井にやつた。何のタネをまいたかは
 お楽しみに... それと車の洗車とワックス
 がけも初夏の風の中 のんびりとやつた。
 次回来所するのは 今年の秋のシーズンに
 最悪の場合なつてしまうかも知れない。
 3日 PM 3:40 帰路につく。

1989 6 5-6-7-8 田中

6月5日 ベタ曇
 6日 快晴 → ベタ曇
 7日 快晴

17日の夜は久しぶりの天文快晴。
 氏によると、11月まで「また観測でき
 ないのでは？」というが、なかなかどうしてこうして
 こんなにいい天気もあるのだ...

(大分) X天体の運路あり。プロセシ・Xト
 カー? 芝度 16.5 等

1989, 6.30~7.1

お久しぶりの来所でありましたか。天気(亦は思ったとおり)
 のついで。筆筒を取りに来たので。ま...か...
 観測室には 無残に 160円か... うん。
~~心配~~ 心配していたカビも出てなくて。ホ! とほめていた
 くらいには。B-M彗星は 1802-の「まじ子のそうさくねかり」
 が 出されたようで。ほれどりにここに行つて見たのがホ!

1989. 8. 3-4-5-6

田中

7月上旬以来1か月ぶりの来所。

二この夏は星がほとんど見えぬのは定説になっているが、8月4日の夜はそれを裏付ける事実に出会った。つまり、ここ(観測所)ではベータ星だ。だが、温泉に行くため、山を降りた。降りるほどに空が良くなり、ふもとでは全天快晴となってしまったのだ。

温泉から出て、また山へもどると、またベータ星。

結論としては、ここ(観測所)で「天気が悪くても、あきらめず、ふもとへ降りるとして、望遠鏡を観測をやるべきだ。

1989. 8/7~8

市村

浄土平へ行こうとしたのですが、有料道路が陥没のため通行止になっていたので、温泉に入ってからここに来ました。あらかわらガスの中の観測所を見て、やはり夏はムダだと思いました。

8/3~8/5、やはり子供を連れて、浄土平にいたのですが、快晴に恵まれ、70mm口径の7寸口径望遠鏡も、球状星団のように、大きく明るく見えました。ややいびつになっていて、かすかに太陽と反対側に尾があるのかな……と思わせる雰囲気でした。夜露はひどいもの、まさにパーフェクトの空でした。

観測所の中がムレて、カビくさいので、空気を入れかえて、リジエして、何とか家では何もしない人間が、^お働こせ!

半日ほど風通しをしておいたら、けっこう快適になったようです。下の和室は、それでもカビくさいので、来所した人は必ず、戸を空け、風を入れて下さい。

秋からの観測に乞うて、20cm口径を置いていきます。もし、使う場合は丁寧に扱って下さい。メッキをやり直し、内側には植毛紙を貼ってあります。13mm口径の手を加えてありますが、上より、使いやすさと思います。フタは必ず閉じて下さい。ターレットは必ず閉じて下さい。おかげで、よろしく。

何かと、文化的な雰囲気になり、便利になったようですが、自動車を置くスペースが狭くなったのが、にやにやです。外野川も、少し整理したいですね。(みんなが、いよこしに)

1989. 8. 13~14~15~16

田中

ようやく、P/ガボルニ・メトカーフ彗星に直面できました。
7月4日の検出以来、見ようと思いつが。7月はついに
見えず。8月ももう中ははなってしまいました。

尾は8月上旬には出てきて、写真に写るようになって
ことは知っていましたが、まさか、肉眼で“は見えないう
ろう”と思っていたのですが(タイプIのイニ(ガス)の尾のため)
なんと、20×4×20の双眼鏡では、はっきり

立ち上っているのが、見えました。

この光度は6.4等。尾の長さは1度ほどと見積り
ました。

さて、次の間夜(8月30日以後)には尾がどの位
伸びているか、実に楽しみになってきました。高度は
低くはありますが、やっぱり、近日点通過後(9月11日以後)
には目したいと思えます。

1989. 9. 5~8

高橋

恒例の夏季合宿、8月はいつも曇天や雲にやま
まれていたので、今年は時期を少しずらし9月に実施
した。ところが秋雨前線が日本列島を縦断する形で停
滞してしまい、全国的に雨と最悪の天気でした。

めづりに私を含め若者10名は、毎夜日の出頃まで
さわいでいると、どうしたことが夜中を過ぎると雲間
から星が、やがて天の川が顔を出してくるので、
結局、6日~7日の夜は朝まで快曇晴、7日~8日の夜は
明け方3時~4時の1時間ばかり突然快晴、冬の銀河を
楽しめました。

残念なのは、明け方東の地平線のみ雲かたまたま
P/ガボルニ・メトカーフ彗星(19890)を見ることか、てんがた
ことです。

でも、毎年見れなかつた^{夏の}星空を2夜もおかめたので、
よしとして、帰路に着くことにします。

1989年9月9日~10日 天気晴→曇り.

田中 [redacted]

ゴロにセー・トカーで葎屋に竹を搬入たぬに夜中に
やってくるが。到着と同時に全天バタ曇。
晴れ間を求めて。おもむに降りたが。結局夕
夏場の天気は本道にあてにならないものだ。

1989. 9. 25~28

田中 [redacted]

9月の天気は長続きしない。

26日は朝から快晴だ、たんに夕方には全天バタ
曇り。そして4日^目今日28日になっても。快晴の夜
は皆無^いやってくる。

しかし。明晩は快晴の予定。たんに^{今夜}帰京(たけい)は
ならない。このうらさ。早く。毎晩。快晴の夜が
待ちどおしい。

(水) (木)
1989. 10. 4-5.

4日 5日
天気 曇り→快晴 曇り

気温 11°C ~ 8°C

田中 [redacted]

夕(ぼり)に晴れ間がやってくるので。平日1日づつ
17. やってくる。今年春先から。私本来の目的の
周期葎屋千工とサーベイがさぼりできず。
今回はそれだけの目的のため。

4日の夜は明け方3時から快晴。葎屋開始の
4時半まで。ゆずがの区域ではあるが。60バツ(15分)
とサーベイを完了。

今5日夜18時 [redacted] 氏事務所。しかし。空は
バタ曇になってしまった。もし曇ったままだと。早急に引き
上げる予定。

1989. 10/5 ~ 10/6

春先からの出張続きの仕事もようやく一段落し、開所式以来の来所になってしまった。

当初は8月下旬頃来る予定だったのが仕事が延び延びになりとうとう10月になってしまった。予定のたてにくい仕事にもこまったもんだ。

夕方観測所に着くと、すでに田中さんが来ており、前日よりの天候を聞いたところ、明け方頃より快晴になったとのこと。きょうの天候を期待するが、雲が多く星はその雲向に見え隠れするのみで一向に晴れ向か広かうない。

午前4時頃まで頑張ってみたが、とうとう全天ベタ雲りになってしまった。

今回、セレストロンC11シュミカセの鏡筒を持って来ました。観望に写真撮影に使用して下さい。フードは鏡筒に巻いてある塩ビ板のものです。[]さんのJP架台を調整の為、使用させてもらいました。

6日は朝からベタ雲りでとうとう昼頃より雨が降りだしてきた。夕方にたりガスが発生、観測所周辺も濃いモヤに包まれ、ほとんど視界0。天気予報によると台風25号も本土に接近中とのことなので、日まできている予定を切り上げてきょう引上げます。

GA-2 カイトアダプターの電源、H2-Dを譲ってもらいました。観測室の引出しの中にあつたものです。代金は電池が入っていた容器に入れておきます。とたたのが分かりませんが、ありがたうございました。次回に来る時にスパアを持ってきますので、よろしく

1989 10/9 ~ 10

やっとながのシーズンがやっとなが来た。
9~10日にかけては快晴のト快晴であつた。今日の新月も休日の都度予定を立てていたが最後の4回目のチャンスで天気に恵まれた。6月以来4ヶ月振りの赤所星を見るのは実に半年前の4月以来である。

致着と同時にクモの巣館と化したKAKO観測所のそうじを開始。月沈の0hにジュミットの砲門を開いた。以後薄明で明るくなる4h30mまで休む撮影を行った。

温度計は見なかったが、すでにかなり寒く、霜が降りた。寒くないとここは晴れないのだから仕方がないが---

KAKO観測所のスライディンググループがサビたのがやっとながと開閉の時重い。一人でやっとなが動かす事ができたが、田中さん、何が良い方法は有りませんか？

今回は観測所の管理人とも言える田中さんいかなかった。一人でマイペースで過ごすのも良いものだが、来月11月5日に行なわれ総会で他のメンバーの人と星と酒に酔うのも楽しみである。

1989. 11/27 ~ 11/5 (H)

市村

多忙な生活を振り切って、やってきた観測所。
快晴、快食、快飲の、最高にフレッシーな休日でした。
これで、おのれ何とか、忙殺仕事に可なりです。

最近のいっけの空は、以前に比べると明子(なつ)が、
それでも、都会にはない、清澄な空気があつて、抜けている。

今回は、下旬に(11/23日頃)やって来ます。

今回は、所員の皆さんと楽しいひとときを過ぎて、久しぶりの
和やかな雰囲気になって、実によいよいです。
今日はもう眠くて、眠くて、何も書けませんので、お(ま)い。

1989. 11. 4 ~ 5

今年11月、2回、観測所です。
観測所の南には、晴れた、確信の、快晴。
[redacted]、新井さん、[redacted]、[redacted]、[redacted]、
星の写真を撮りました。早くて、思っていたよりも、
その日は、[redacted]、100%、うしろの、160cm、カメラ、
セキに、オゾン層の、[redacted]、
銀河の、明り、星も、観測所、
夜です。

1989. 11. 4 ~ 5

西村

昨日、向來のバンの屋敷に、愛車のモト(？)で、観測所へ。
バンの3年程に乗っていました。このバンの、今後は、藤下和の自
宅近も、のりする程。

観測所の日は、秋(いっけ)い。昨夜の空は星(いっけ)い。

白鳥座ととも、天の川が、いっけに、充分観望です。おまけに
O-R-L(？)の、星も、見えた。やっぱり、双眼鏡と30cmは、
いっけが、あります。今度は、車を、買って、
いっけです。

1989 11/3 ~ 11/5

仕事も忙しい中、自分の気を通じ、いっけに、来りました。
夏期の、加圧止のため、E-160を、自宅に、帰して、
持ってきました。銀座線の中では、E-160を、乗るのも、
比谷線では、ラッシュで、
いっけでは、[redacted]、(生活送)いっけ、
通じました...!

1989. 11. 4 ~ 5

新井

1年ぶりの来所です。久々の観望に、感激が、
12cm 双眼鏡で、NGC 253 を、見つけた、
初めての体験でした。

[redacted] セレストロン、
M42、M31、33、
M97、M99 等も、見せて、
拡大像は、印象的でした。28cmの、
イリコフは、おもしろい。

1989 11/4 ~ 11/5

10月に来た時は、あいにくの天気だったが、今回は、よく、
星の、
所員の、
気分も、
いっけです。

1989. 11. 4~5 夜快晴

各以来の観測が不幸に左記の3/4反射の
眼鏡カメラの4~5cmサイズ直直点カメラを完成させ
試写もかねて撮影してみた。左記のカメラはKマウントなので
ニコソレの干渉を消すために東洋の鏡金まで
カメラカメラ(Kマウント→ニコマウント)を作った。
"いわき"の公式カメラはKマウントカメラに12倍の
工作が単純なもので工作が単純なものと自作改造可能
なカメラが99%なのでぜひお願いしたい。

1989. 11. 4~5. 夜快晴

1年ぶりに来所しました。夜半すぎに到着したので、実際に
星を観たのは2~3時間でした。

久々に12cm双眼で色々の天体を観て感動しました。
エコーも盛り上がりを楽しみました。ちよちよ来るように
努力したいです。

1989 11/2~5

とにかくにきやがな いわきでした。

この秋の岡崎・レド・ルゲニエ望遠鏡に~~使用~~する
ように、望遠鏡設置を完成させました。
1日に180°まで、移動天体の撮影が可能です。

これから、この^新装置を使って、岡崎望遠鏡の千秋の等
に役立てたいと思います。

1989. 11. 4~5

久かきのいわきさうほう、空を抜けて
最高のコンディションで、コタツクスのレニス
テントをすたぬ。お525字(まくら、たけ
と寒いの為にバッテリーが上がってしまった。
たぬぬぬ、それでは空が晴れているの
ぶんぶんになってしまふ 4時ですまで、みん
ちのみ出してまたた(間)にヒールヒールか
ころがりに来た。しかし明午方にかけて
ヒースも見えるとにたいたのし
の1日でした。日曜日はおちのか
盛すまで、でもさういってもしじも、
五本ほど字した。

1989. 11/18(土) ~ 19(日)

市村

只今、19日(日)午前2時40分。くもりから雨がしてくもりと曇りに
3.5℃ 変化する 天気なので、観望はやめにして、寝ることにした。

今回は、家族サービスといふことで、実家に来たのであが、天
予報を見ると、朝方には冬型になるので、ひっとしたら...と思
て来ましたが。どうやら、見事とは何かできなかったが、露が
ひびいて、アイボースがくもってしまった。

2時頃、田中 [] 来訪。田中 [] — みなさん、待望の
田中 [] だよ。来訪者日誌が楽しみだね。 — とは、
多久しぶりの対面です。しかし、残念なことに、雨が降ってきました。

2週間前に来てから、再び忙しい毎日でしたが、あと3日(月、火、水)
視限ると、何とか一息つけるので、再び来所しようと思ってる。

朝方、少し眠って、すぐに実家に帰り、子供をたれとどこか行くつも
りだが、どこにしようかな。

12月2日の金星食をビデオで撮る予定ですが、ホントに撮れます
か(笑)。前回、こちらで撮っていたものは、VHS-C だったので、今4で
した。やはり、DVHS-Cの方が、お、というて可相。

今日、学校で、^(お母) 標準的家庭の父親に較べて、はるかに自由を満
喫していると評された 市村さんですが、「そ—かあ」というのが
本音です。年に10回も家をあけるわけじゃないのに、ですよ。やはり、
自立したけど、と思いませんか...。上には上が、もっと上がいる
んです！ 皆さん！

それにしても、キレイな星空が見たい。

おしまい。

1989. 11. 18-19

田中 []

18日

天

くもり → 快晴 気温9℃

19日

快晴

気温0.5℃

ようやく待望の冬型の気圧配置になった。
けさの岡崎、シベ、ルテの彗星は冬型の
直前で、眼視で見えたり、光度は6等前後が

月がかりが、あっても、せめて追いかけてみたい。

1989. 11. 25-26

ほぼ1年ぶりの来訪で、^①ここに来る前は天気が
あまりよくなかったが、この日、空が見えるかという心配でし
たが、来てみると満天の星空で、今までの来訪では
最高部類の星空だった。今回も家族を引連れ
ての来訪だったのだ。思う存分とまじけ行進せし
でいるが、それだけ、星雲、星団、そして何といっ
ていふ話題の彗星とかがめることまで最高
だった。5人でいっぺんにおしかけて、皆ごみ寝床
を~~覗~~覗していき、おようび、申し訳ないお礼をし
た。でも、子供も、美しい宇宙を堪能したお
で大喜びだった。観測所の皆様、有難うござい
ました。

1989. 11. 22~26 天気 (はい ほとんど「けし」雲りあり)

11月2度目の来所では、白の〜、酒でマリア
毎分だったよる気がする。(は〜た、え〜た、あ〜た
希り外 遅くなる(20mm?)

1989 11 25~26

予定通り撮影終了と思つたのに、なんと!
シユミットのピントネジがゆるんでいた。
またピント出しをやらなくてはならない。

1989. 11. 22~26 天気 晴れ (時々曇り)

市天

恐ろしい4泊5日であった。快晴が続くと、連続観測は
キツイ。しかも、毎夜の寝は うかし、ほろかし、おそろしい
スヶジールであった。

1晩に、3つの彗星を見たのは久しぶり。
でも、他人の彗星を見るだけではイサしい
塔さん、応援しよう——。

市天

*12月までは、応援、来子ヤ——。

1989.

田中

11. 22^日~28日 (た〜と〜7日以内)

岡崎・シ〜・ル〜の彗星を追いかけて
帰向。女々つかれました。

1989 12 / 1~3

天気: 晴れ時々雲り

先週と違って今回は、私一人だけの
観測所でした。一人だと観測も
マイペースで順調に行えました。

2日の夕方には金星食があつたが、
雲が多く見れなかつた。もつともこの日
起きたのは、なんとPM 4:00で、遅い
朝食?、現象といそがしくそれどころ
ではなかつた。次の来所はおおみそが
ころです。それでは観測所Xソバの皆さん
良〜お年を! (まだ遅いかな?)

1989. 12. 9~10 天候もり 田中

岡山、シビー・ルグニツ彗星が去ってすぐ、アース・
ブリウイングトニが明るくなるため、明け方の
ゆずがた時をゆらして、もってきたのが、
全天バタ曇のため、その姿を見られず、残念。
西村さくがの朝6時のTELによると、東京では
よく見えたとの事。

1989. 12. 23-24 天候もりの時
(土) (日) 気温 -0.5°C
田中

年末のため、ここにもちこちとくるヒマがなく、東京から
アース・ブリウイングトニ彗星を追いかけて
アソビを3~4回行った。しかし、まともな見果
はなかなか観られなかった。

最後にここで、じつと決まろうと思っただけ、津波
のため、眼視的に見ただけ。

来春からのオースキニ彗星に期待しよう。

※現在、眼視的に見える彗星 (11等以上)

- アソビニ彗星 (1989e1) 10等 } はく女
- ハルニ・ロ・マニ・アヒニ (1989v) 11等 } 座

※彗星11位までは田中までTELしを。

※~~現金箱~~の中のお金をい、友人集計
した。

12/24現在 ¥27,810-

来年は税金だけで、15万以上かかる
ので、おおいに寄付に期待します。

1989年12月27日(水)~30日(土)

高橋

27日 東京の天気は曇り、常磐道を走行中一時雨となったので、星は
~28日 今日は見れないものとあきらめながらも微かな希望を持って
観測所¹に到着した。今日は、今年9月に来所したことのある仲
良しの学生(男女)2名を同行した。目的は、来年7月発行予定の小
学生用の参考書の中で「星の動き」を執筆することになり、これに載せ
る写真を撮影することである。ゆったに天体望遠鏡を撮らない私は、
まず固定撮影から始めることにして準備をした。

あきらめていた空は、いっしか快晴になり、めでたく一夜
予定した日周運動の撮影を終えた。

28日 明りる。気温は -4°C 。観測室の赤いじゅうたんは白くなって
~29日 いな。PM1時にセットした目覚まし時計の音で起床したのは
私だけだ。学生2人はまだ眠っていた。持って来た年賀状
の宛名書きをして夜を待つことにする。今日はガイド撮影をする
予定である。昨夜ほど良い空ではないが今日も快晴で、予定し
た撮影を終了した。

29日 本日、11時仲良しの学生カッポルは家路に^向上~~向~~た。1人は
~30日 東京、1人は勤務場である。同時に12時(正午)、海老子の
からスノーボードに乗って勿来に到着、12時30分
家か勿来インターに到着した。観測所に着くと休みのし、民宿²に
行く。風呂に入ることはできたが食事³にありつくことができず、
青野の食堂に行くが、ここもダメ、また観測所に戻る。雲間か
ら星が見えていたので、30mでアポロメタ星を撮影、子供は
満足している様子、また早くして曇天(雲量10)となった。PM9:24分
に勿来に着く車を連立に勿来へ行く、途中食べそこねた夕飯を取り、
豪華に「アコウカベ」を食べる。満足した。家路は、やまみ岸路に
着く、残った私と。家路は再び観測所に戻り、雲の切れ間か
ら時々覗かせた星々に望遠鏡を向ける。今日は星は7枚も撮影できた。

~~30日~~ しかも、お牛(29日23時35分)から雪が降り出す。一面雪景色になる。
撮影をあきらめて寝ることにする。

30日 AM6:00 起きると、空は快晴である。しまった、昨日食卓の上に
あった市村氏の書き置きを思い出す。「更夜に風呂に入り風呂
です。明日は晴れるので来ます。……」雪がこりない、あの雪
で外にセットした五匹袋の中に入れ、ビールを飲んでしまったので
あった。

ともかく、今回の日程を消化した。3泊4日での夜快晴で星が
見れたのだから、天気に恵まれていたことになる。

注意、2階で寝袋にこもって寝ようとしていたS。踵の極を照ら
影が通り返きた。ネ、ネスミだ! 同じ頃、下の食堂で
も見たという報告があったので、最低2ヒキはいる。食べ物を出
したままにしてるとネスミのためには良くない? 注意しよう。

宣伝 2年前の9月23日、沖縄で全環日食が見られました。そ
れにご承知のことでしょうが……。この報告書がやっと
まとまったので、一冊書いてあきらまずでござんす。ぜひ
もしきにいってご連絡をお願いします。1冊2000円です。
ご協力を宜しくお願いします。

それでは皆様、良きお年をお迎え下さい。

ここから 7 ページは市村 さんです。

1989. 12/27 (水)

22日から 采子 予定であったが、やはり 雑用がいろいろとあって、27日になつてしまった。その内、天候も悪く、ちよび、ふータイミンクであったが、それは、日本での話だったらしい。

夕方、実家に 家族をおいて、急いでやってきましたが、結局、3時過ぎから、ようやく 観測に入った。

田中さんから 知らせが入り、白鳥座に 新彗星あり、とのこと。それにしても、よく見つかることだ。日本の天候がうらめしくはない。

天気がいいと、20cm で 11~12 等くらいのが、よく見える。倍率の関係もあるのだが、Deep Sky Warden とでは、楽しいことだ。

今回、うけさの 15cm 双眼を持ってきました。真ルートで、半額で手に入れたもので、道楽も、こなすべく、我ながら 恐ろしい気がします。しかし、あまりにも 重いため、今夜は、車の中で、ゆくりしてもらってます。

見た感じは、12cm よりも、倍率が高い (25倍) せいか、小さな天体は見やすいようです。星像は、それほど 大差ない感じ。やはり、大径、値段の差だけかなあ。

私個人としては、反射経緯台が、いちばん 使いやすくて、ある。要するに、使い慣れが ことごとく、かぬ。

30~40cm の 反射が 有効なのは、銀河が入ったとき、形がよく つかえるというわけで、その意味では、効果あり、という感じが、しょうが。

1989. 12/28 (木)

昼頃、起床。食事もせず、15cm 双眼の センターを はじめ、上にあけるほど 狭角で、下におくことには、する。双眼の上に 載せる 8cm ED、フリンター a を つく。回車用の ハンドルをつける。結局、夕方まで かかる。

夕方、高橋 さんたちが、食事に行くので、その内、20cm で、白鳥座の 新彗星 を 見ることにする。田中さんの tel では、10等級 あるとのことなので、20cm で、うらめしく、見えな と思いきや、全く 見えな ない。昨日より、透明度が だいぶいい と言え、10等級が見えな はずはない、なんて 思いながら 探すこと 30分、ダメでした。

今夜は、上で カイト撮影をするというので、私は 下で 15cm で、テスト 観望。接眼部に 3mm a K-ターを 巻きつけて、あとの、様子という ことは、全くなくて、とても 快適である。10~10.5 くらいでの 光度 2' 以上の 大径のものなら、まあ 大丈夫というところだ。しかし、等倍 フリンター だけでは、位置を見つけたのが 苦しい。やはり、7x50 の 正立フリンター が 欲しい。FF、8cm の ED では、やはり 力不足。12~15cm の ED が 上に のせられ、サイコー、! (うめた)

3時過ぎから、薄雲が出てきたので、寝ることにした。

12/29(金)

昼頃に起きると、すでに他の3人はいなかった。自宅であれは
見送りに出るのだろうか。ここではその必要もないか？
とにかく、起きたら、誰もいなかった。

風呂に入るため、実家に帰ることにする。途中、ライオン堂で、食料
を買い込み、白河の関で一服して（私は、夕にコは喜ばない）、
3時過ぎに到着。6人の子供と3人の母親に囲まれ、うりさい
こと、うりさいこと。それでも、7時までに相手をし、観測所にくる。

来てみると、誰もおらず、空は曇ったり、晴れたり。下り坂だ。

暇なので、菓子予定の [] 氏に tel. いくらかかるかわからないので、
上の電話で、番号を呼び出し、料金をカウントしてもらって……あとで気が
ついたらのだが、下のビョウで、10円玉にかえればよかったのだよなあ。
と、何やら面倒なことをしていると、高橋夫妻と友人一家がやってきました。

私は、下で、ウスキーを飲みながら、雑誌を読んでいたが、天気は悪くなる
一方で、とつぜん雲に変わった。上から、ドタバタと高橋さんがおり
てきて、外に据えてあった12cm長赤を片付けはじめた。もうあきらめ
らしい。明け方は晴れる！と私は信じていたが、やる気は全
くなくて、ウスキーのお湯割りを飲んでいた。

そのあと、全員が食堂に集まって、お茶会。お茶会のように宴会にならな
かたのは、組み合わせであるね。私 ~~が~~ が、酒好き宴会好きだ、ということ
はなく、きっと [] さんが、キーマンなのだと思える。

来る時分、くつろいだ気分とふやけた頭で、床に入る。

※ 朝は 快晴 であつた!!

12/30(土)

11時に起きると、観測所の中はカランビとして静寂につつまれている。
高橋氏一行は、すでに出発したらしい。外を見ると、快晴！
やはり、予想通り明け方晴れたようだ。台所のテーブルの上には、
残念がっている高橋さんの手紙が残されていた。
昼食というか朝食というか、とにかく食事をしてこれを書いている。
使い捨てのペン、水性ボールペンと、使いごころを確かめながら、こま
ま書いてきたが、もう飽きてしまった。(12:50)

夕方、 [] 氏到着。

天気は悪いが、晴れるかもしれないので、一晩中、起きていることにす
る。時々、外に出てみると、星が見え隠れする。相変わらずの 空もよう。
そして、明け方、飲みはじめ、床にフこうとした5時過ぎ、快晴。

いわきの明け方は要注意!

12/31 (日)

今日は昼間から **快晴**。

■さんに午伝、乙もらって、15cm双眼を観測室に上下た。
それにしても、重くて、ひとりでは、手にあまる。

夕方から、すぐに観測に入ったが、寒いと、この上もない。

今年一番で、(しかも最後だ)、たえがたいほどの寒さ!

15cmと20cm反経と12cmを行ったり来たりで、17:00動きまわったが、
寒風にたえられず、3時~4:30分まで、仮眠。(過眠か!?)

夕方、白鳥座の彗星を見たが、銀河の中なので、その帯をとらえろ
のは、17:00くらいであった。10等と言われると、そんな気もするが、
光度よりも微光星が存可まで、わかつくという感じ。

それにしても、充実した、久しぶりの一晩でした。

1990年です。

1/1 (月)

ただ今、^あ7:26分。酉卒、乙ます。
ウイスキーのお湯割り 5杯でクラクラです。
今、朝日を見えました。

雲向より見えた太陽は、やはり、まぶしい!

サイト一君は寝てしまった!

ワタシ、市村は、酉卒のまま、これを記している。

アア、何と、極楽、ゴクラク。

今年の**新彗星**は、

あべこべ、11月まで発見!

...されるとぬけあ!

謹んで

新春のお慶びを

申し上げます。

与志 尊

何と、起きたのは、午後3時! 快晴! 二日酔いかなとい。
すこい量の食事をしてから「龍」で風呂に入るが、アレイニとこの上なし。
軽くビールを飲んで(もちろん観測所まで)、テレビを見て、■氏は想像。
市村は日誌書きと読書。月が沈んで、さで、そろそろ観測しようか、という
只今、9:10分の2人です。

1/2(日) ~ 3(水)

とにかく眠い。

早くうちに帰りたい。

あとはい。皆さんのためにあけておきます。

しっかりと書いて下さい。

書いてあるときは全く中子とかがない。

寝ると明け方 晴れそうだし — 結局、あけておけ → ぬい。

春休みまで、(かわき) とは バイバイです。

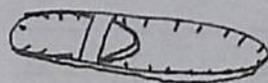
飲んで寝ました!!

(市村)

朝は快晴(日)

P.S.

市村のペンシルケースが行方不明になりました。



← 皮のやつ

↑
こんなかんじで、YOSHIMI と かわり合います。

見つけた人には、栄見賞をさしあげます!!
大切なプレゼントですので、よろしく。

(市村)

1989 12/30 ~ 1990 1/4

いわき天体観測所の皆さん

新年明けましておめでとうございませ

と書いてもここは全くそれらしくない。31日に

寒いのに年越すは「さる」を無理に食べ

もちを食べた位いで他はいつものいわき

で正月らしくない。

それにしてもここの生活は撮影、現像、ネガ

チェックと忙しい。うれしくもあり、苦しきも

あるのだが……

昨年の観測所利用回数で私はヤコトのこと

同日2位であった。休日と月と天気の限り

かならずが来所していったのに。今年はずっと

来たい。来なければならぬ!

すべては新彗星発見の為に。

1988年7月

日	曜	断	取	来	所	者	内容
1	金						
2	土						
3	日						
4	月						
5	火						
6	水	●下弦					
7	木						
8	金						
9	土						
10	日						
11	月						
12	火						
13	水						
14	木	●朔					
15	金						
16	土						
17	日						E-1 交換 30cm 及 材 取付
18	月						
19	火						
20	水						
21	木						
22	金	●上弦					
23	土						
24	日						
25	月						
26	火						
27	水						
28	木						
29	金	●朔					
30	土						
31	日						30cm 調整

1988年9月

日	曜	月	節	天	来	所	者	内容
1	木							
2	金							
3	土		●下弦					
4	日							
5	月							
6	火							
7	水							
8	木							
9	金			晴				火星撮影
10	土							
11	日		●新月					
12	月							
13	火			台風				
14	水							
15	木							
16	金			曇				何もできず
17	土							
18	日							
19	月		●上弦					
20	火							
21	水							
22	木							
23	金							
24	土							
25	日							
26	月		○満月					
27	火							
28	水							
29	木							
30	金							

1988年8月

日	曜	月	節	天	来	所	者	内容
1	月							
2	火							
3	水							
4	木							
5	金		●下弦					
6	土			晴時多 曇				30分-42分観望
7	日							
8	月							
9	火							
10	水							
11	木							
12	金		●新月					
13	土			晴 曇				
14	日			雨				
15	月			曇				
16	火			曇				
17	水			曇				
18	木			曇				
19	金			曇				
20	土			曇				
21	日		●上弦					
22	月							
23	火							
24	水							
25	木							
26	金							
27	土							
28	日		○満月					
29	月							
30	火							
31	水							

1988年11月

日	曜	月	天候	来所者	内容
1	火	●限			
2	水		快晴	高橋(雄)	
3	木		快晴		
4	金		快晴	田中	
5	土		快晴	西村	
6	日		快晴	新井 高橋(俊)	
7	月				
8	火				
9	水	●新A			
10	木				
11	金		快晴	田中	
12	土		快晴	田中	
13	日				
14	月		快晴	市村	
15	火		快晴		
16	水				
17	木	●上段			
18	金				
19	土		快晴	田中	田中X天体確認
20	日				
21	月				
22	火				
23	水				
24	木	○満月			
25	金		快晴	田中	サ-バ-イ
26	土		"		
27	日		"		
28	月				
29	火				
30	水				

1988年10月

日	曜	月	天候	来所者	内容
1	土		快晴	田中	
2	日		雨		何もできず
3	月	●限			
4	火				
5	水				
6	木				
7	金				
8	土				
9	日		多曇	田中	
10	月		快晴		
11	火	●新A			
12	水				
13	木		快晴		
14	金				
15	土		快晴	田中	
16	日		快晴		113113
17	月				
18	火	●上段			
19	水				
20	木				
21	金				
22	土				
23	日				
24	月				
25	火	○満月			
26	水				
27	木				
28	金				
29	土		快晴	田中	作業
30	日				
31	月				

1988年12月

日	曜	断天	来所者	内容
1	木	●不		
2	金	快晴	田中	サバイ ポイント出し
3	土	快晴>>曇	田中	
4	日	快晴		
5	月			
6	火			
7	水			
8	木			
9	金	●新	市村	
10	土	快晴	田中	それ以外の観測 食塵、すいか
11	日	"		
12	月			
13	火			
14	水			
15	木			
16	金	●上	田中	30ヶヶ調査
17	土	吹雪 快晴		
18	日			
19	月			
20	火			
21	水			
22	木			
23	金	○新		
24	土			
25	日			
26	月			
27	火			
28	水			
29	木	快晴	高橋(豊)	
30	金			
31	土	●不	田中 市村	

1988年度観測所使用状況
(87.12~88.11)

1	田中	47夜
2		27
3		12
4	市村	10
5		8
6	高橋	8
7		5
8	西村	3
9		3
10		3
11		3
12		2
13		2
14	新井	2
15		1
16		1
17		1

合計夜数 138夜

1989年2月

日	曜	年齢	来所者	内容
1	水			
2	木			
3	金			
4	土	快晴	田中	
5	日			
6	月	晴		
7	火			
8	水			
9	木			
10	金	快晴		
11	土		田中	4エ、 #-ベイ
12	日			
13	月	上弦		
14	火			
15	水			
16	木			
17	金			
18	土			
19	日			
20	月	晴		
21	火			
22	水			
23	木			
24	金			
25	土			
26	日	快晴	田中	#-ベイ
27	月			
28	火			
29	水			

1989年1月 (1989年1月平成元年)

日	曜	年齢	来所者	内容
1	日		市村	谷中での 大騒ぎ
2	月			
3	火			
4	水			
5	木			
6	金			
7	土			
8	日	晴		
9	月			
10	火			
11	水			
12	木			
13	金			
14	土	上弦	田中	谷中、 NHK取材
15	日	快晴		
16	月			
17	火			
18	水			
19	木			
20	金			
21	土			
22	日	晴		
23	月			
24	火			
25	水			
26	木			
27	金			
28	土	快晴	市村	#-1"1. { 02h 5 06h
29	日		田中	
30	月	上弦		

1989年4月

日	脚	来所者	内容
1	土		快晴
2	土		快晴
3	月		
4	火		
5	水		
6	木	●新	
7	金		
8	土		
9	土		
10	月		
11	火		
12	水		
13	木	●上弦	
14	金		
15	土		
16	土		
17	月		
18	火		
19	水		
20	木	●新	
21	金		
22	土		
23	土		
24	月		
25	火		
26	水		
27	木		
28	金		
29	土		
30	土		

1989年3月

日	脚	来所者	内容
1	水	●下弦	
2	木		
3	金		
4	土		
5	土		
6	月		
7	火		
8	水	●新	
9	木		
10	金	快晴 晴	
11	土		
12	土		
13	月		
14	火	●上弦	
15	水		
16	木		
17	金		
18	土		
19	土		
20	月		
21	火	●新	
22	水		
23	木		
24	金		
25	土		
26	土		
27	月		
28	火		
29	水		
30	木	●下弦	
31	金		

1989. 6月

日	曜	天候	来所者	内容
1	木			
2	金			
3	土			
4	日	晴		
5	月	快晴		
6	火	"	田中	△j'0: t2 x t k -) 柏木 X 尺体
7	水			
8	木			
9	金			
10	土			
11	日	晴		
12	月	快晴	田中	△j'0: t2 x t k -) X 尺体
13	火			
14	水			
15	木			
16	金			
17	土			
18	日	晴		
19	月	満月		
20	火			
21	水			
22	木			
23	金	大雨	田中	
24	土	大雨		
25	日	"		
26	月	下弦		
27	火			
28	水			
29	木			
30	金	曇	田中	

1989年5月

日	曜	天候	来所者	内容
1	月			
2	火			
3	水			
4	木			
5	金			
6	土	雨	田中	
7	日	雨		△j'0: t2 x t k -) 30名の来所.
8	月			
9	火			
10	水			
11	木			
12	金			
13	土	雨	田中	
14	日	雨→晴		
15	月			
16	火			
17	水			
18	木			
19	金	雨	田中	
20	土	雨→晴		
21	日	雨→晴		
22	月			
23	火			
24	水			
25	木			
26	金			
27	土	快晴	田中	△j'0: t2 x t k -)
28	日			
29	月			
30	火			

1989年8月

1989年7月

日	曜	節	天気	来所者	内容
1	火				
2	水				
3	木		(刮)		
4	金		(刮)		
5	土		(刮)		
6	日		大雨		西園13号接近
7	月				
8	火				
9	水				
10	木				
11	金				
12	土				
13	日		快晴		左ノD.L.セ2. x hカ→
14	月		(刮)		
15	火		晴時々		
16	水		(刮)		
17	木				
18	金				
19	土				
20	日				
21	月				
22	火				
23	水				
24	木				
25	金				
26	土				
27	日				
28	月				
29	火				
30	水				
31	木				

日	曜	節	天気	来所者	内容
1	土		快晴		
2	日		"		
3	月				
4	火				
5	水				
6	木				
7	金				
8	土		快晴		
9	日				
10	月				
11	火				
12	水				
13	木				
14	金				
15	土				
16	日				
17	月				
18	火				
19	水				
20	木				
21	金				
22	土				
23	日				
24	月				
25	火				
26	水				
27	木				
28	金				
29	土				
30	日				
31	月				

1989年10月

日	曜	脚	天	来	所	者	内容
1	日						
2	月						
3	火						
4	水		附				
5	木		天				
6	金						
7	土						
8	日	上					
9	月						
10	火						
11	水						
12	木						
13	金						
14	土						
15	日	朝					
16	月						
17	火						
18	水						
19	木						
20	金						
21	土	下					
22	日						
23	月						
24	火						
25	水						
26	木						
27	金						
28	土						
29	日						
30	月	朝					
31	火						

1989年9月

日	曜	脚	天	来	所	者	内容
1	金						
2	土						
3	日						
4	月						
5	火						
6	水		附				
7	木		天				
8	金	上					
9	土	下					
10	日						
11	月						
12	火						
13	水						
14	木						
15	金	朝					
16	土						
17	日						
18	月						
19	火						
20	水						
21	木						
22	金	下					
23	土						
24	日						
25	月		附				
26	火						
27	水						
28	木						
29	金						
30	土	朝					

1989年度 観測所使用状況
(1988.12 - 1989.11)

1.	田中	80夜
2.	[redacted]	13
3.	水村	17
4.	[redacted]	7
5.	[redacted]	1
6.	高橋	4
7.	[redacted]	2
8.	西村	1
9.	[redacted]	3
10.	[redacted]	3
11.	[redacted]	7
12.	[redacted]	1
13.	新井	1
14.	[redacted]	1
15.	[redacted]	3
16.	[redacted]	2

合計 150夜

1989年11月

日	曜日	観測所	内容
1	水		
2	木		
3	金	田中	
4	土	新井	
5	日		
6	月	田中	
7	火		
8	水		
9	木		
10	金		
11	土		
12	日		
13	月	田中	
14	火		
15	水		
16	木		
17	金		
18	土	田中、新井	
19	日		
20	月	田中	
21	火		
22	水		
23	木	田中	
24	金	新井	
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	新井	
29	水		
30	木		

1989年12月

1990年1月1日～

おけ札で、おめでとうござります。90年代のはじまりの中1日に久しぶりにやって来ました。天気もよく系外星雲を写した。現像してみると少し流れているものの濃度の画ではまあまあよいようです。ライトシユミットを30cm ニュートンに変えてF3.5からF5.7になったので写真の写りかたが悪いかなど思ったけどTMXで写して見るとよく写る事が分かった。ネガ上で画像も大きくなっているので系外星雲をどんどんとりたつと思う。

1月1日の11時ごろにとうちくした。市村さんと [] さんが来て、観測をしていました。 [] さん親子がのしと来所しました。M31、M42、木星 などセオリー通りのものを見ておつて、その後写真の撮映をはじめた。5コマ写して終了。2月に現像したと少しピコニボケ。でも、ライトシユミットの時とくらべて見栄えの好いのが写っていた。

1月2日 朝寝なりの10時ごろから朝の散歩に出かけた。 [] さん親子と約一時間のコース、高坂さんの家の前を通り、下で行くと途中でより道をしておたふしり、家を見、 [] さん「おんちんいぬ、おんちんちんちんいぬ」 国道までおたふし。田中さんの車と出会う。「白かほ」へ昼食をとり出かけた。車は「白かほ・ラーX2」というのを雇った。ラーX2の中に中身が入っているようなものがあった。わりとおいしかった。夜は

この続きは No6へど「光」(田中)

日	曜日	天気	来所	者	内容
1	金				
2	土				
3	日				
4	月				
5	火				
6	水	晴			
7	木				
8	金				
9	土				
10	日				
11	月				
12	火				
13	水	晴			
14	木				
15	金				
16	土				
17	日				
18	月				
19	火				
20	水	晴			
21	木				
22	金				
23	土				
24	日				
25	月				
26	火				
27	水				
28	木	晴			
29	金				
30	土				

Campus



4 901480 070322

MADE IN JAPAN

KS 6号 179×252

中紙: 白上質紙 75g/m²

中性色 200